

2024年 8月発行

取扱説明書

DPFクイックリフレッシューII

EE5001-0000

スペアノズル	ショート(小型車用)	EE5001-1000
スペアノズル	ミドル(中型車用)	EE5001-2001
スペアノズル	ロング(大型車用)	EE5001-3001
スペアノズル	LL(大型車用)	EE5001-3100



本製品を使用する前にはこの取扱説明書を注意深く読み、記載している重要事項をよく理解してからご使用ください。

この取扱説明書は、いつでも使用できるように大切に保管してください。

販売元 **株式会社アルティア**

まえがき

この度は、DPFクイックリフレッシャーⅡをお買い上げ頂きましてありがとうございます。
ご使用になる前に必ずこの取扱説明書を熟読し、よく理解してから使用してください。
取扱説明書内の注意事項及び使用方法等を十分ご理解の上、ご使用頂くことで洗浄効果を
発揮いたします。正しい施工方法にて作業が行われない場合には、車両の不具合や人身
事故につながる恐れがありますので、充分ご理解の上、正しくご使用ください。
本製品や取扱説明書の内容についてご質問がある場合は、お買い上げ頂きました販売会社
までお問い合わせください。
尚、本製品を使用の際は取扱説明書及び警告ラベル等の紛失や汚損に気をつけてください。
万一、紛失・汚損した場合は速やかにご購入の上、大切に保管や貼付をお願いします。



警告

この取扱説明書では「危険」「警告」「注意」について次のような定義と警告表示を使用しています。

警告表示は安全作業のために重要な事柄です。人身事故や財物損害防止のための重要な事項が記載されていますので必ずよく理解してから使用してください。



危険 . . .

取扱を誤った場合に、使用者が死亡または重症を負う危険が切迫して生じる事が想定される場合



警告 . . .

取扱を誤った場合に、使用者が死亡または重症を負う可能性が想定される場合



注意 . . .

取扱を誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合及び物的損害のみの発生が想定される場合

目 次

1	使用目的	1
2	警告事項	
	警告ラベルの貼付位置及び内容	1
3	洗浄原理	2
4	特 長	2
5	使用上の注意事項	2
6	構成部品	3
7	各部の名称及び機能	
	1) 本体関係	4
	2) 操作パネル	4
8	始業点検と準備	
	1) 始業点検	5
	2) 準備	5
	3) 液剤補充	8
9	洗 浄	
	作業前の確認	
	1) 用意するもの	9
	2) 洗浄方法の確認	9
	3) DPF差圧確認（必要に応じて）	9
	4) 尿素SCR付き車両の確認	9
	解説	10
	車載洗浄	
	1) セットの仕方	11
	2) 自動洗浄	13
	3) 手動洗浄	13
	4) 取り外し	13
	乾 燥	
	1) 初期乾燥	13
	2) 乾燥状態の確認	14
	3) NOxセンサー取付け（尿素SCR付車両の場合）	14
	4) スキャンツールを使って強制再生	14
	5) DPF差圧確認（必要に応じて）	14

仕上げ	
1) 燃料フィルター交換	14
2) 添加剤を注入	14
分解洗浄	
1) 用意するもの	15
2) DPFユニットの取外しとセット	15
3) 洗浄	15
4) すすぎ	15
5) 乾燥	16
6) 添加剤を注入	16
10 仕 様	17
11 故障と処置	18
12 製品保証規定	
1) 保証規定	19
2) 保証請求方法	19

1. 使用目的

本製品はディーゼル微粒子捕集フィルター（DPF、DPD、DPR）専用の洗浄装置です。

2. 警告事項

警告ラベルの貼付位置及び内容

記載内容をよく読んで理解してから使用してください。



警告	
手に薬剤が付いてしまった場合には水で手をよく洗うこと。炎症が出るような場合は直ちに医師の診断を受けること。	万一目に薬剤が入ってしまった場合にはこすらず水で洗う等の措置をとり、直ちに医師の診断を受けること。
万一飲み込んだ場合には大量の水を飲ませて、直ちに医師の診断を受けること。	作業中は必ず、ビニール手袋・保護メガネ・保護マスクを着用すること。
薬剤を混ぜて使用しないこと。指定の薬剤以外は使用しないこと。	雨や水に濡れる場所での作業を行わないこと。 感電・故障の恐れあり。
製品の改造・分解を行わないこと。	取扱説明書をよく読み、理解してから使用すること。重要警告事項の説明あり。警告事項に従わないと重大事故の危険性あり。

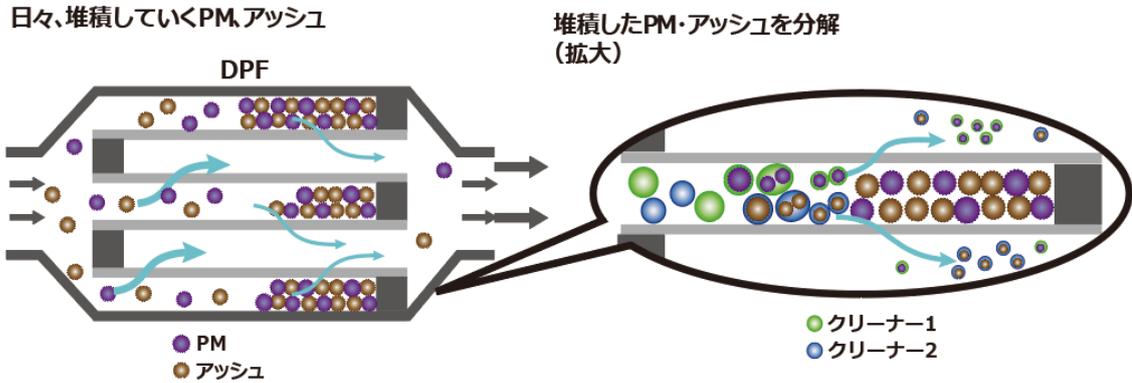
注意

- 警告ラベルは大切にしてください。
- 剥がれや汚損した場合は、お買い上げの販売会社から購入の上、正しく貼付してください。

3. 洗浄原理

本製品はDPFに堆積したPM（カーボン、アッシュ）の除去を目的とする製品です。従来のDPFクリーナーはカーボン洗浄に主眼を置いた製品ですので、アッシュを効率良く洗浄することは難しく、ベストなコンディション回復まで至らない恐れがあります。本製品はカーボン、アッシュという2種類の異なる汚れに効率よく働く洗浄剤を自動運転方式で噴射洗浄いたします。

2種類の専用特殊洗浄剤を使用することによりDPF通路内に蓄積したPMとアッシュを強力に分解する事が出来ます。



4. 特長

- (1) DPFの取外し不要
- (2) 車載状態のDPFのサイズに合わせたノズルをセットするだけで洗浄可能。
小型車DPF：スペアノズル ショート EE5001-1000
中型車DPF：スペアノズル ミドル EE5001-2001 (2 t車～)
大型車DPF：スペアノズル ロング EE5001-3001
大型車DPF：スペアノズル LL EE5001-3100 (別売)
- (3) 簡単・自動洗浄
セット後、運転ボタンを押すだけで自動洗浄開始。
- (4) 効果抜群の洗浄剤
DPFに堆積したカーボン、アッシュという2種類の異なる汚れに対してそれぞれに洗浄効果がある2種類の専用特殊洗浄剤を使用する事でDPFを強力に洗浄いたします。

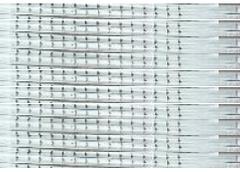
5. 使用上の注意事項

注意

- DPFの洗浄以外には使用しないでください。
- 作業中は必ずビニール手袋、保護メガネ、保護マスクを着用してください。
- 作業時以外は100Vコンセント、エアークプラーは取外してください。
- 皮フについたり又は目に入ったりした場合には、こすらず水で洗う等の措置をとり、目の場合は医師の診断を受け、皮フの場合は異常があれば医師の診断を受けてください。
- 吸引・吸入による体の不調がある場合は医師の診断／手当を受けてください。

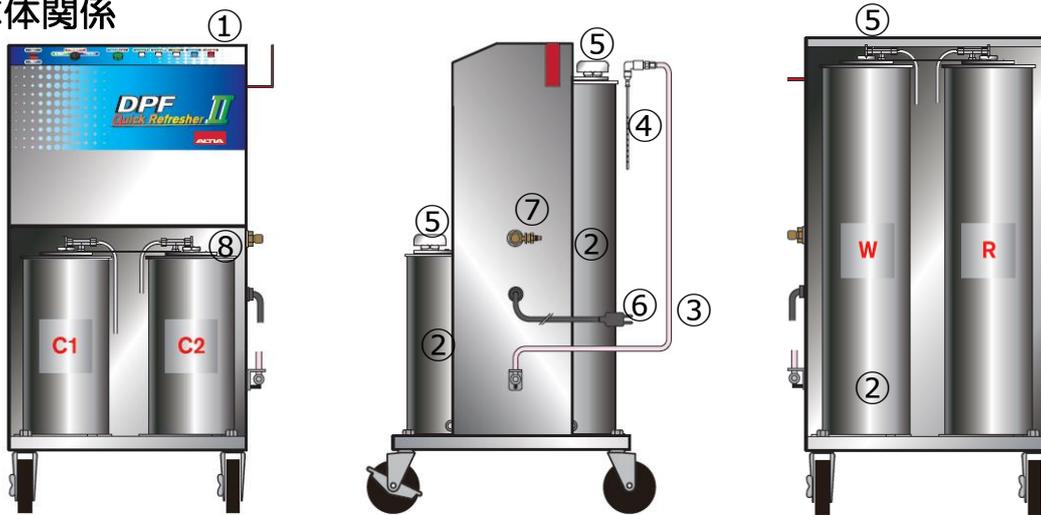
6. 構成部品

	品名	荷姿	数量	備考
1	本体		1	<ul style="list-style-type: none"> 標準エアーク圧0.4Mpa AC100V電源コード5m 注入ホース2.5m
2	特殊洗浄ノズル		1	<ul style="list-style-type: none"> 本体付属ノズル ノズルショート3本 ノズルミドル3本 ノズルロング3本
3	漏斗		1	
4	固定ベルト		1	
5	取扱説明書		1	
6	保証書		1	

消耗品 (別売)	スペアノズル ショート EE5001-1000(20本)		1	80mm
	スペアノズル ミドル EE5001-2001(20本)		1	190mm
	スペアノズル ロング EE5001-3001(20本)		1	210mm
	スペアノズル LL EE5001-3100(20本)		1	275mm

7. 各部の名称及び機能

1) 本体関係



	名称	機能
①	操作パネル	DPFクイックリフレッシャー操作
②	タンク	液剤タンク
③	注入ホース	液剤吐出用ホース (2.5m)
④	交換式洗浄ノズル	液剤噴射用ノズル
⑤	液剤補給口	各種液剤補給
⑥	電源ケーブル	電源供給用
⑦	エアー接続口	エアー供給
⑧	エアーレギュレーター	作動エアー圧設定 (初期設定値0.4MPa)

2) 操作パネル



	名称	機能
A	電源スイッチ(照光タイプ)	メインスイッチ
B	機能セレクトスイッチ	洗浄力(ノーマル・パワフル)、マニュアル切替
C	運転ボタン(照光タイプ)	スタート/ストップ
D	液剤ボタン(照光タイプ)	進行インジケータ、残量警報(点滅式)、手動時の液剤選択
E	完了パイロットランプ	作業終了時点灯

8. 始業点検と準備

1) 始業点検

毎日の作業の前に必ず始業点検を行ってください。

 注意	
<ul style="list-style-type: none">異常と思われる箇所が発見された場合は、異常箇所の修復を完全に行なうまで製品の使用を禁止してください。お客様での修復が困難な場合は、お買い上げの販売会社まで連絡してください。そのままお使いになると重大な事故及び製品の破損につながる危険性があります。	

点検箇所	点検項目
操作パネル	・ 電源”ON”時にすべてのランプが点灯、点滅するか ノーマル、パワフルモード時は全ボタン点灯 マニュアルモード時は運転ボタンのみ点灯
	・ 各スイッチ、ボタンに破損がないか
	・ 接続状態、つまり、折れ、つぶれ、キズ等がないか
注入ホース	・ 接続状態、つまり、折れ、つぶれ、キズ等がないか
特殊洗浄ノズル	・ つまり、折れ、印字かすれ、消えている等がないか
液剤量	・ 液剤ボタンが点滅していないか(パワフルモード最低使用量)
エアーレギュレーター	・ エアー漏れ、破損等がないか
各部	・ 漏れ(液剤、エアー)がないか

2) 準備

(1) 100Vの一次側電源が供給されているか確認してください。

(2) エアーを接続してください。

※入力エアー圧上限 0.97MPa 上限を超えるエアー圧がかかった場合破損する恐れがあります。

(3) 操作パネル面の電源スイッチをONにして、運転ボタン、および液剤ボタン(機能セレクトスイッチがノーマル・パワフルの場合は液剤ボタンの点灯を確認。マニュアルの場合は消灯しています。)

(4) 液剤ボタンが点滅している時は液剤不足です。液剤補充をしてください。

補充時は液面ゲージで液量を確認し、あふれないよう注意してください。

●エアーレギュレーターの確認

 注意	
<ul style="list-style-type: none">エアーレギュレーターに供給するエアー圧力は0.97MPa以下としてください。これ以上の圧力を掛けますとエアー機器が破損する可能性があります。	

2) 準備

●交換式洗浄ノズルの点検

ノズルの装着方法と噴射される方向や噴射状態(つまり)を確認してください

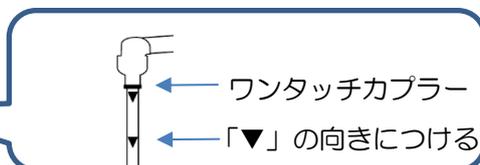
【ノズルの装着方法】

注入ホースに装着されているエルボ(L型)先端のワンタッチカプラー(樹脂・白)に交換式洗浄ノズルを差し込みます。

- ①ノズルの向き(上下)に注意してください。

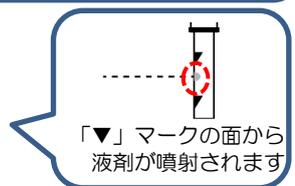
ノズルの上下「▼」マーク・・・○

ノズルの上下「▲」マーク・・・×(逆向き)



- ②ノズルの噴射方向に注意してください。

「▼」マークが印刷されている面から液剤が噴射されます
洗浄するDPFへ向かって、液剤が噴射されるように取り付けてください。



【噴射確認方法】

- ①エアースーツが繋がっていることを確認し、電源スイッチをONにしてください。
- ②機能セレクトスイッチ(黒)をマニュアルモードに切り替えてください。
- ③液剤ボタンのウォーター(青)を押してください。
- ④スタートスイッチ(緑)を押してください。
- ⑤2～3秒ほど噴射して図2のように適正噴射しているか確認してください。

※周囲への飛散に十分注意して確認してください

図1

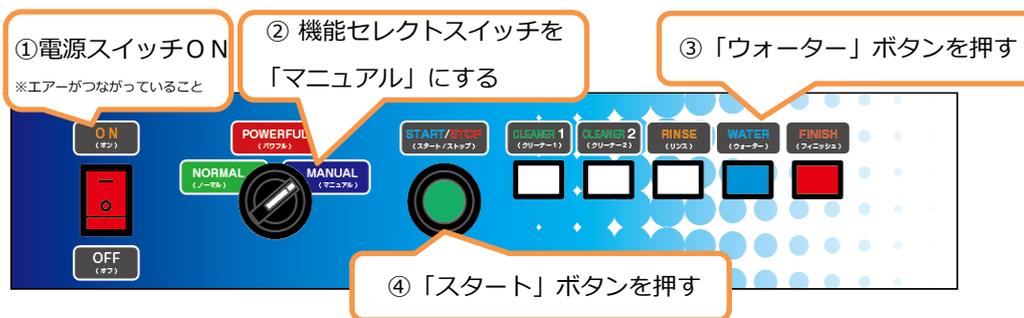
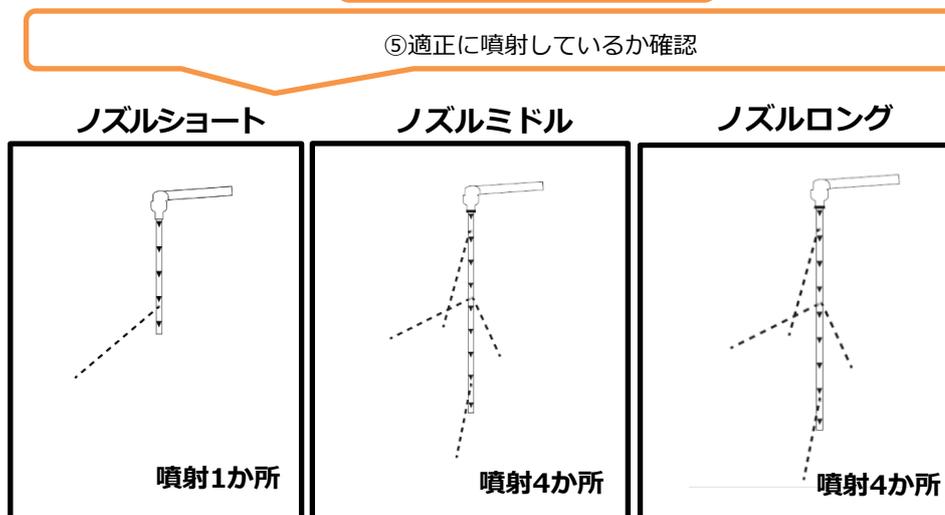


図2



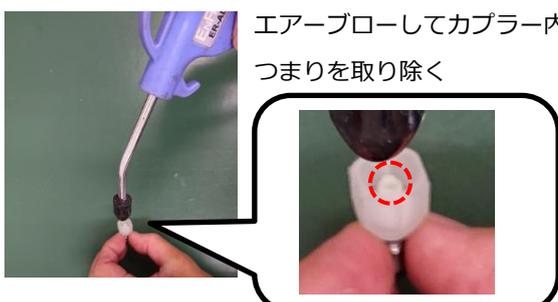
●エルボ(L型)先端のワンタッチカプラー(樹脂・白)の点検 (以下カプラー)

【カプラーの洗浄方法】

タンク内に異物が混入した場合等、ノズルに異物が詰まる可能性があるため、定期的にホース先端カプラーを分解して清掃してください。

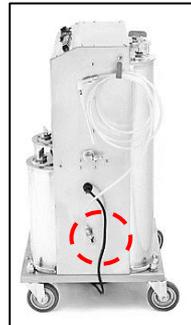
※エアブロー等が有効です。

【清掃の仕方】

 <p>カプラーのキャップ を外す</p>	 <p>エアブローしてカプラー内の つまりを取り除く</p> <p>カプラー側の清掃</p>
 <p>エアブローしてカプラー内の つまりを取り除く</p> <p>キャップ内の清掃</p>	 <p>キャップ内先端に ゴミ等が詰まって いないか確認</p>

●機械本体に挿入されているワンタッチカプラー接続部の清掃

【カプラーの洗浄方法】

洗浄箇所	ノズル取り外し	カプラー清掃
	 <p>ホース内のチューブをつまみ カプラーの先端を押しながら ホースを抜いてください。</p>	 <p>エアブローしてカプラー内の 異物を取り除いてください。 詰まりがある場合は、先端の細 い物で異物を取り、マニュアル モードで水を出してください。</p>

3) 液剤補充

液剤ボタンが点滅した場合、該当液剤を補充してください。

 注意	<ul style="list-style-type: none"> 液剤ボタンが点滅していないのに補充すると溢れる可能性があります。 液剤の補充時は必ずビニール手袋、保護メガネ、保護マスクを着用してください。 皮フについたり又は目に入ったりした場合には、こすらず水で洗う等の措置をとり、目の場合は医師の診断を受け、皮フの場合は異常があれば医師の診断を受けてください。 吸引・吸入による異常がある場合は医師の診断／手当を受けてください。
--	--

- (1) 電源がOFF（パイロットランプ消灯）になっているかを確認してください。
- (2) エアーチャックを外し、エアーが抜けたことを確認してください。
- (3) 補充する液剤のキャップを開けてください。

 注意	<ul style="list-style-type: none"> 電源を切ってエアータンク内の残圧が下がったことを確認してゆっくり開けてください。 電源を入れた後、エアーカプラーを接続した状態でキャップの開封をしないでください。液剤やエアーが飛散する恐れがあります。
--	---

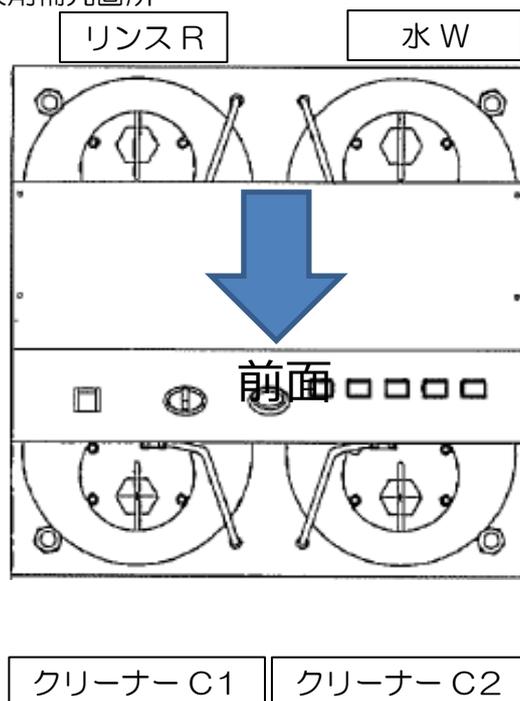
- (5) 付属の漏斗を使用し、液剤を原液のまま補充してください。

 注意	<ul style="list-style-type: none"> 絶対に専用液剤以外は使用しないでください。 溢れさせないようにしてください。 液剤のコンタミを防ぐ為、漏斗は毎回水洗いしてください。
---	--

- (6) キャップを締め付けてください。
※白い樹脂パッキンがある事を確認してください。

 注意	<ul style="list-style-type: none"> 誤って液剤を混入させてしまった場合はマニュアル操作で全ての液剤を排出した後、水ですすぎ洗浄を行い、新たに液剤を補充してください。
--	--

液剤補充箇所



 注意	<ul style="list-style-type: none"> 洗浄後の廃液処理は各事業所規制に応じて処分してください。
--	--

9. 洗浄

作業前の確認

1) 用意するもの

- DPFクイックリフレッシャーⅡ
- ビニール手袋
- 保護メガネ
- 保護マスク
- 交換式洗浄ノズル
- 必要工具(排気温センサー脱着他)
- スキャンツール(自動車故障診断機) (※強制再生できる機種)
- 車両サービスマニュアル(準備できればご用意ください)

2) 洗浄方法の確認

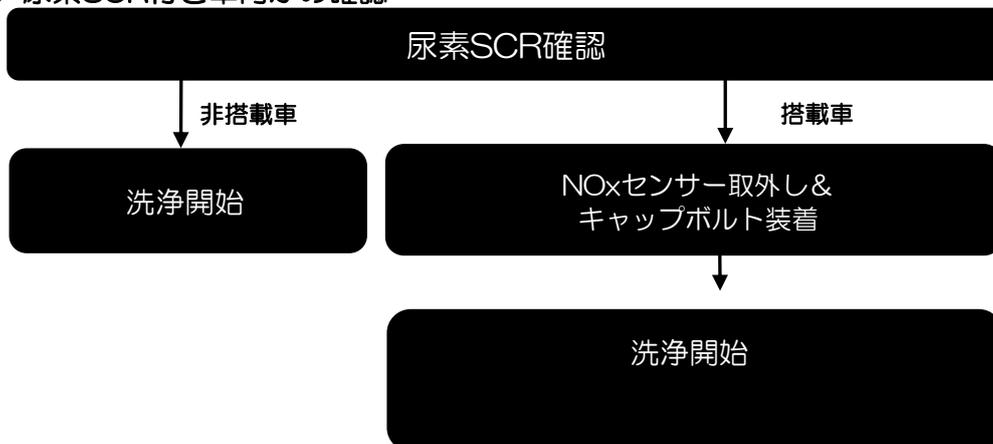


- 車載洗浄：DPFを車載状態で洗浄します。
- 分解洗浄：DPFを車両から取り外し洗浄します。

3) DPF差圧点検(必要に応じて)

スキャンツールでDPFの差圧を点検しておく、洗浄作業の効果を確認できます。

4) 尿素SCR付き車両かの確認



NOxセンサーはSCR触媒ユニット下流に付いています。O2センサーと同様形状で22mmナットが主流です。取り外したらコネクターは抜かずに、コードに負担がかからないように仮固定しておきます。必要に応じてキャップボルトでふたをします。



自動再生

走行中に車両がECU（車載コンピュータ）の指示により自動的に再生を行う機能です。堆積量、走行状態などを判断して行われます。PM（粒子状物質）の堆積量が増え、ある一定値を超えると、ECUはPMが燃焼できるまでDPFの温度を上昇させる制御を実行します。

手動再生／強制再生

手動再生は、停車状態で運転者がスイッチを動作することで再生を実施することです。強制再生は、スキャンツールを使用して工場で行うことです。

再生を実施することで、確実に排気温度を上昇させPMを完全に燃焼させることが可能です。再生モードでは、エンジン回転を上昇させる・アフター噴射を行うなど強制的にエンジンに負荷をかけて排気温度を上昇させています。

再生可能範囲

PMが限度以上に溜まっていると再生燃焼時にDPFの溶損、破損の恐れがあるため、強制再生ができません。このような場合は、車両から降ろして分解洗浄する必要があります。差圧の再生可能範囲数値は各メーカー・車両ごとのサービスマニュアルに記載されていますので確認して下さい。

洗浄廃液処理

洗浄廃液処理

各事業所規制に応じて処分してください。

車載洗浄

1) セットの仕方 図1



- 排気温センサーの取り外し
DPFユニットについている排気温センサーを取り外します。(図1)
14mm または17mm ナットが主流です。

図2



- 排気温センサーはDPFユニットの上流と下流に複数装備されています。
必ずDPFユニットの上流センサーを取り外してください。

※上図は作業が分かり易いようにDPFユニットを取り外しています。

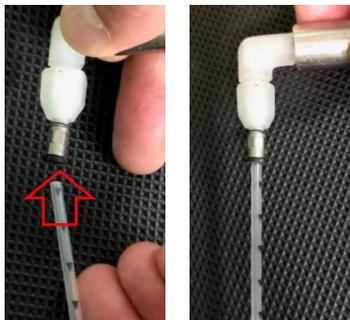


注意

- 車載洗浄はエンジンを停止して作業を実施してください。
- DPFユニットが熱くなっている時は火傷の可能性がある為、作業しないでください。

• 特殊洗浄ノズルのセット

- ノズルの種類 車両サイズに合ったノズルを挿入する



交換式 スペアノズル ショート : EE5001-1000 (20本)

交換式 スペアノズル ミドル : EE5001-2001 (20本)

交換式 スペアノズル ロング : EE5001-3001 (20本)

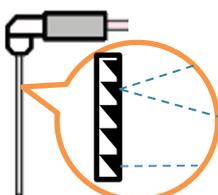
交換式 スペアノズル LL : EE5001-3100 (20本)

■ ノズル交換時期

ノズルの変形や詰まりによって適正な噴射状態が得られない場合やノズルの印字が消えた場合には適宜交換してください。※適正な洗浄が出来ない恐れがあります。

■ 取付の向き

▼印がある方面が噴射側



- DPFがある方向に▼印が向くようにセットし、噴射

状態を施工前に確認してください

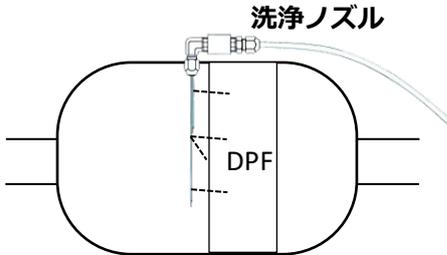
(機能セレクトスイッチを「マニュアル」に切り替え、液剤ボタンの「WATER(ウォーター)」を押してください。正常な噴射状態を確認後、液剤ボタンを押すと噴射が止まります。

- 三角形の印が下向き『▼』になるように取り付けてください。



取り外した排気温度センサーの取付口から洗浄ノズルをセットします。ノズルの噴射穴はノズルの▼マークのある側に空いています。

排気ガスの流れ →



噴射方向をDPFフィルター(下流側)に向けてセットします。

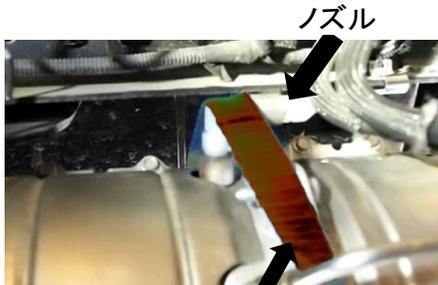
洗浄液の噴射方向



左図のように付属の固定ベルトで固定してください。

※洗浄液をDPFフィルターに十分浸透させるために、洗浄ノズルの向きが特に重要です。

固定ベルト



固定ベルト



注意

・マフラーに固定するベルトは耐熱性ではありませんので、マフラーが熱い状態で巻かないようにご注意ください。(許容温度：100℃)

2) 自動洗浄

- DPFは軽く暖機運転後の温まっている状態が理想的です
- 機能選択スイッチのノーマル/パワフルを選択
※ノーマル：小型車・2t車・4t車、パワフル：7t車以上
- 運転ボタンを押します
クリーナーC1から一連のクリーニング作業が自動で行われ、完了後に自動停止します。



3) 取り外し

- 固定ベルトを緩め、洗浄ノズルを取り外します
- 排気温センサー取付け
排気温センサーを取り付けます。この際、ネジ部に焼付き防止潤滑剤を塗布しておくことで焼付きによるネジの固着を防止できます。

※手動洗浄

- セレクトスイッチのマニュアルを選択
 - 噴射させたい液剤ボタンを押すとランプが点灯します
 - 運転ボタンを押すと選択した液剤が噴射します
 - 液剤噴射中にもう一度運転ボタンを押すと停止します
- ※液剤ボタンを何も押さず、運転ボタンを押すとエアのみ噴射されます

 注意	• NOxセンサーは水に弱いのでDPF乾燥後に取り付けます（尿素SCR付車両）
--	---

乾 燥



1) 初期乾燥

エンジンを始動し、アイドリングで15分間放置します。アクセルを5~6回全開にして水分を飛ばします。

※エンジン始動時、マフラーから洗浄液・水が出ることがあります。必要に応じてバケツなどをマフラー排気口にあらかじめ置いておくことをお勧めします。すでに洗浄分解反応後ですので、廃液に危険性はありません。

※車両によっては洗浄後エンジン始動するとDPFランプが点灯します。これはフィ

ルターに含まれる水分の抵抗を感知しているためです。初期乾燥が終わっても一度ランプが点灯した場合は強制再生を行わないとランプを消すことができません。最後の本乾燥で強制再生を行うので、そのまま初期乾燥作業を続けましょう。

 注意	• 水分が多量に残っている状態での強制再生は絶対に行わないでください。DPFフィルターが破損する危険があります。
--	--

2) 乾燥状態の確認

スキャンツールで排気温度をモニターします。上流と下流センサーの温度差が小さく、且つ、下流センサーが100℃以上の場合は、初期乾燥は完了しています。温度差が大きい場合は、まだフィルターに多くの水分が含まれています。さらに初期乾燥工程を行ってください

※大半の車両はDPFの上流と下流にセンサーが付いています。

3) NOxセンサー取付け（尿素SCR付車両の場合）

NOxセンサーを取り付けます。この際、ネジ部に焼付き防止潤滑剤を塗布しておくことで焼付きによるネジの固着を防止できます。

4) スキャンツールを使って強制再生

車両サービスマニュアルに従ってDPF強制再生を実施します。これで乾燥工程は完了です。

5) DPF差圧点検（必要に応じて）

スキャンツールでDPFの差圧をチェックして効果を確認します。

仕上げ



1) 燃料フィルター交換

初回注入時には、燃料フィルターを極力交換してから注入してください。強力な洗浄力により、燃料フィルターに詰まったゴミが溶け出し、燃料ラインに悪影響及ぼすことがあります。

2) 添加剤を注入

No.4 コンディションキープ1本を燃料タンクに注入します。コンディションキープによる燃料ラインの強力な洗浄力とDPFの助燃効果により、DPFの詰まりを最小化し、車両のコンディションを維持します。



注意

• 燃料タンクには最低50Lの燃料が必要です。燃料が少ない場合はエンジンに悪影響を与える為、必ず給油してから注入してください。



注意

• 絶対にディーゼル燃料以外には使用しないでください。異常燃焼によるエンジン破損や火災につながる可能性があります。

分解洗浄

1) 用意するもの

- エアーガン
- 散水ノズル
- 廃液受けトレイ
- スキャンツール（自動車故障診断機）（※強制再生できる機種）
- ビニール手袋
- 保護メガネ
- 保護マスク
- 必要工具
- 必要に応じて廃液処理

2) DPFユニットの取外しとセット

- DPFユニットを車両から取り外す時は、各種センサー、パイプ、ホース類を外しSCR付き車両は、NOxセンサーも外しておきます。
- ユニットの分解すると触媒部とDPF部分に分かれます。
- DPFユニットを排気の流れに沿ってエンジン側を上に向けてセットします。

3) 洗浄

- ① 「クリーナー-C1」を直接DPFユニット上部からまんべんなく（渦巻き状）かけていきます。
次にエアーガンでエアーを吹いて押し込みます。
そのまま15分以上放置します。



- ② 「クリーナー-C2」を①と同様に作業します。

- ③ 「リンスR」を直接DPFユニット上部からまんべんなく（渦巻き状）かけます。

※リンス液は、放置時間は必要ありません。

液剤使用量の目安（分解洗浄1回分）

	クリーナー-1	クリーナー-2	リンス
ノーマル洗浄（2t・4t）	300cc	300cc	900cc
パワフル洗浄（7t車以上）	500cc	500cc	1500cc

※分解洗浄の場合は薬剤容器から別のボトルに移し替えて使用することをおすすめします。

4) すすぎ

- DPFユニットの上下を入替えます。マフラー側を上にしてください。
- 散水ノズルで洗浄します。溶けたアッシュやカーボンが真っ黒い水となって出てきます。時間をかけて水が透明になるまですすいでください。
- エアーで水分を飛ばします。



 注意	<ul style="list-style-type: none"> • 水の勢いは強い方が洗浄には有利ですが、セラミック損傷の危険があります。注意深く行ってください。アッシュはクリーナーで溶けて小さくなっていますので高圧洗浄機を使用する必要はありません。
--	---

推奨	<ul style="list-style-type: none"> • 差圧パイプの詰まりも確認しましょう。差圧パイプ洗浄にはクリーナーC1を使用してください。直接パイプ内に注入して時間をおいて水で洗浄すればきれいになります。
----	---

5) 乾燥

洗浄後は十分乾燥させてください（自然乾燥可）。その後、本乾燥を行います。すすぎ後、まもなく車両に取り付ける場合は、各種センサー、パイプ、ホース類をセットしエンジンを始動させて初期乾燥を行ってください。その後、スキャンツールにて強制再生で本乾燥を行います。

※NOxセンサーを取り外していた場合は初期乾燥後、センサーを取り付けた後、強制再生で本乾燥してください。

6) 添加剤を注入

No.4 コンディションキープ1本を燃料タンクに注入します。コンディションキープによる燃料ラインの強力な洗浄力とDPFの助燃効果により、DPFの詰まりを最小化し、車両のコンディションを維持します。

 注意	<ul style="list-style-type: none"> • 燃料タンクには最低50Lの燃料が必要です。燃料が少ない場合はエンジンに悪影響を与える為、必ず給油してから注入してください。
--	---

10. 仕様

仕 様	
商 品 名	DPFクイックリフレッシャーⅡ
商 品 番 号	EE5001-0000
使 用 電 源	AC 100 V (50/60Hz)
消 費 電 力	25W 以下
供 給 エ ア ー 圧	0.97 MPa 以下
駆 動 エ ア ー 圧	0.4 MPa
液 剤 タ ン ク 容 量	C1、C2タンク 6 リットル R、Wタンク 12 リットル
本 体 寸 法	W450 × D450 × H880 (mm)
本 体 重 量	約43kg(タンク空)、約68kg(満タン)
付 属 品	特殊洗浄ノズル(多孔式樹脂製PP)
	2.5mチューブ
	漏斗
	固定ベルト

特殊洗浄ノズル	
スペアノズル ショート	: EE5001-1000
スペアノズル ミドル	: EE5001-2001
スペアノズル ロング	: EE5001-3001
スペアノズル LL	: EE5001-3100

1 1. 故障と処置

故障かなと思われる前にもう一度確認してください。

異常が生じた時は、この取扱説明書をよくお読み頂き、下記の点検をした上で、それでも改善されない場合は、お買い上げの販売会社へ相談してください。

症 状	原 因	処 置
電源が入らない	<ul style="list-style-type: none">• 一次電源がきていない• シーケンサーの故障	<ul style="list-style-type: none">• コンセントを確認• 販売店へ連絡
電源は入るのにボタンが反応しない	<ul style="list-style-type: none">• エアーが供給されていない• エアー圧が低い• シーケンサーの故障	<ul style="list-style-type: none">• 接続を確認• 供給圧を確認• 販売店へ連絡
液剤がでない	<ul style="list-style-type: none">• エアーが供給されていない• エアー圧が低い• ノズルの変形• チューブの折れ、つぶれ• カプラーに異物が詰まっている• 液剤不足• 本体内部のバルブ詰まり	<ul style="list-style-type: none">• 接続を確認• 供給圧を確認• ノズル交換• チューブ交換• カプラー清掃• 液剤補充• 販売店へ連絡
エアーがでない	<ul style="list-style-type: none">• エアーが供給されていない• エアー圧が低い• 一次電源がきていない• シーケンサーの故障	<ul style="list-style-type: none">• 接続を確認• 供給圧を確認• コンセントを確認• 販売店へ連絡

※その他不具合がある場合は販売店へ連絡してください。

12. 製品保証規定

1) 保証規定

記載内容をよく読んで理解してから使用してください。

取扱説明書、警告ラベル等の記載内容に従った正常な使用状態で、保証期間内（納入後1年以内）に故障した場合は、弊社の責任に於いて無償にて欠陥部品の手直し、修理、取り替え、交換部品の送付をさせていただきます。

但し、二次的に発生する損失の補償、及び次の場合に該当する故障は、保証の対象外とさせていただきます。

「保証の対象外となる事例」

- 1) 使用上の誤り、保守点検及び保管等の義務をお客様が怠った為に発生した故障、及び損傷。
- 2) 商品の作動機構に悪影響を及ぼす変更（改造）を加え、それが原因で発生した故障及び損傷。
- 3) 消耗品が損傷し交換を要する場合。
- 4) 火災・地震・風水害・その他の天災地変等、不可抗力に起因する故障及び損傷。
- 5) 指定された純正部品をご使用されなかった事に起因する場合。
- 6) 日本国以外でご使用される場合。
- 7) 保証請求手続きが不備な場合。（例：欠陥部品の返却がない場合等）
- 8) 弊社又は弊社指定サービス工場以外にて修理・改造・及び設置工事を行った事に起因する故障及び損傷。

2) 保証請求方法

記載内容をよく読んで理解してから使用してください。

上記規定に基づいて本製品の保証請求を行う場合は、御買い上げの販売会社まで連絡してください。必要な手続きは販売会社が実施いたします。

尚、保証の要否については、大変勝手ながら弊社において判断させていただきますのでご了承ください。

取扱説明書

商品名称	DPFクイックリフレッシャーⅡ
商品型式	EE5001-0000
初版発行月日	令和 元年 8 月 20日
改訂発行月日	令和 6年 8月 22日
改訂発行月日	令和 年 月 日
改訂発行月日	令和 年 月 日
改訂発行月日	令和 年 月 日

無断複写・掲載を禁ず

御連絡先

株式会社 アルティア

札幌支店	007-0803	北海道札幌市東区東苗穂3条3-1-81	011-786-2010
仙台支店	983-0034	宮城県仙台市宮城野区扇町3-2-15	022-783-3810
関東信越支店	104-6206	東京都中央区晴海1-8-12 晴海アイランド トリトンスクエアオフィスタワーZ棟	03-6777-0334
首都圏支店	104-6206	東京都中央区晴海1-8-12 晴海アイランド トリトンスクエアオフィスタワーZ棟	03-6777-0331
名古屋支店	465-0035	愛知県名古屋市名東区豊が丘26番地	052-775-4010
大阪支店	556-0021	大阪府大阪市浪速区幸町3-7-11	06-7708-8820
広島支店	733-0842	広島県広島市西区井口5-25-21	082-277-2340
福岡支店	812-0007	福岡県福岡市博多区東比恵3-6-1	092-411-5351
機工営業部	104-6206	東京都中央区晴海1-8-12 晴海アイランド トリトンスクエアオフィスタワーZ棟	03-6777-0038
海外課	104-6206	東京都中央区晴海1-8-12 晴海アイランド トリトンスクエアオフィスタワーZ棟	03-6777-0065